

小紋から訪問着まで…多くのシーンで活躍する

気品ある上質な 名古屋帯

上 質さと気品を漂わせながらも、程よく引き算されたシンプルな装いがきものにも求められる現代。

袋帯に匹敵するオーラと、軽やかな締め心地が叶う“**クラス感のある名古屋帯**”をご提案します。

卓越した技を携えた織匠の感性が宿る**名古屋帯**は、古式の概念にとらわれず、晴れの装いにも重宝します。

小紋を心地よい緊張感でクラスアップさせ、訪問着には上品な抜け感を演出する…万能に活躍するアイテムです。



名古屋帯の生産数は袋帯と比較して少なく、そもそも織機のタイプが違うことと袋帯の方が単価が高いため「一本織るなら価格の高い袋帯を」というのが織元の本音です。質が高く礼装にも使える名古屋帯は、さらに生産数が限定されるため、京都の取引先で開催される陳列会では、常時このことを注視しながら仕入れをしています。



幾何学的な蜀江文様を今様の色彩で表現した帯



上 アイボリー地に欧州唐草文を表したデザインの帯(となみ)

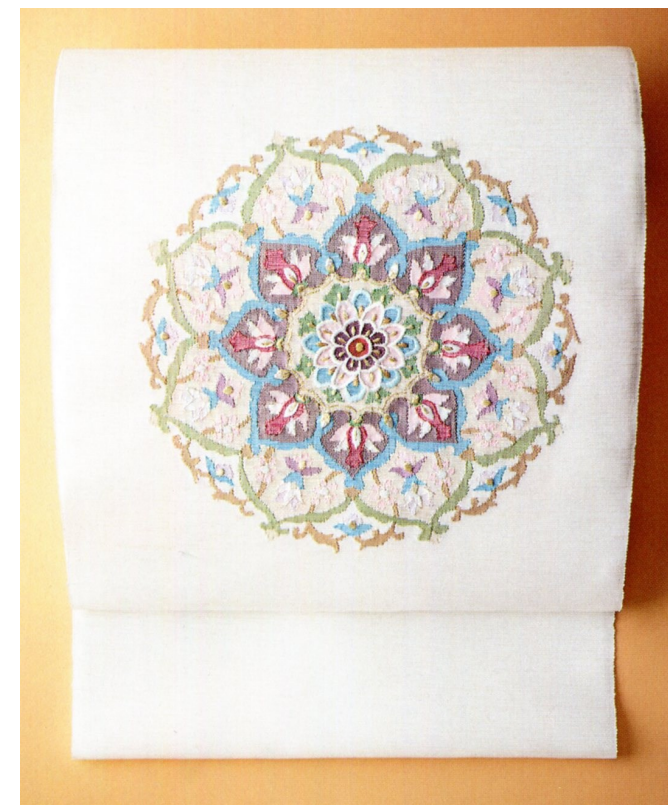
下 桐唐草文様を立体感のある唐織で表現した帯(川島織物)



若緑と鳥の子色を市松に配したオリエンタル文様の帯



墨色の松垣地に松竹梅の丸を散らした吉祥文様の帯



すくい織でパステル調の愛らしい華文を表した帯



紫と金の横段に松の意匠を織り上げた気品の高い帯

2025年 夏物新作受注会リポート

■竺仙 浴衣・江戸小紋発表会



天保13(1842)年に浅草で創業した江戸小紋と浴衣の老舗**竺仙**(ちくせん)の新作展が、2月3～4日に京都で開催され、100社を超える呉服店で賑わいました。会場には新作が一堂に展示され、各店が好みの柄を注文していました。当店の注文品は4月から順次仕上がり、5月の連休には店頭陳列されますので、どうぞお楽しみに！

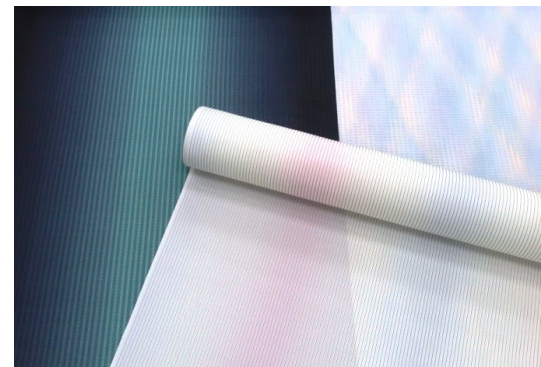


松煙染小紋は、松の根を燻した煤を膠で練ったものを用いて、**竺仙**が独自に開発した奥州絁生地に染めた高級浴衣です。手織紬のような独特な風合いの生地は、4月末から単衣のきものとして着用できる通好みのアイテムです。

江戸小紋も**竺仙**では全てが職人の手付け技法によって染められます。現在流通している多くの製品はシルクスクリーンを用いた機械染めですが、**竺仙**の作品には職人達の息遣いが表れ、手作業のぬくもりと味わいがあります。

春先から活躍する 軽やかな単衣コート

日差しが暖かくなると重い冬のコートは脱いで、春らしい軽やかなコートが着たくなります。そして、しだいに単衣のコートに手を伸ばしてしまいます。寒暖の差がしばらくは続く春の日におススメのコートをご提案します。



春用の単衣コート地 ¥110,000～



■千切屋 夏・単衣の会



夏単衣の会が京都の老舗問屋**千切屋**にて開催されました。毎年2月には各社で浴衣を含めた夏物が一斉に発表されるため、全国から多くの小売店が上洛します。きものや帯のメーカーが手掛けた夏の新作は2～3月の注文分のみを製作します。そのため、夏前の実需期になるとどうしても品薄になりますので、単衣や夏のきものご準備には早めのご用命をオススメします。

京都ミュージアム探訪 河井寛次郎記念館

陶芸家**河井寛次郎**のかつての住まい兼作業場であった**河井寛次郎記念館**を訪ねました。所在地は東山区五条坂の閑静な住宅街にあります。明治23年、島根県安来に



深め、**民藝**(民衆的工藝)という新語を作って**民藝運動**を推進しました。寛次郎は陶芸にとどまらず、木彫や金工、竹製品などあらゆる作品を世に生み出しています。

生まれた寛次郎は旧制松江中から東京工業学校窯業科に進学し、卒業後は陶磁や釉薬の研究に従事しました。その後、思想家の**柳宗悦**や陶芸家の**濱田庄司**とともに日用的雑器の美への関心を



寛次郎が使っていた登り窯

登り窯を擁する工房を兼ねた住宅では、寛次郎の個性あふれる作品とともに館内に漂うほのぼのとした空気感に触れることができます。

河井寛次郎記念館 月曜休館
開館時間:10時～17時 ☎(075)561-3585
京都市東山区五条坂鐘鋳町569

